

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦  
SUPERBIKE RACE in MOTEGI

栃木県・ツインリンクもてぎ(1周=4.801379km)

2021年4月3日(土) 公式予選・JSB1000レース1 天候:曇り コース:ドライ  
4月4日(日) 決勝 天候:曇り コース:ドライ

観客動員数: 13,000人(2日間合計)

JSB1000	2	■清成龍一	Race1	予選: 2番手(タイム:1分48秒403)	決勝: 2位
			Race2	予選: 2番手(タイム:1分48秒480)	決勝: DNF
ST1000	37	■渡辺一馬		予選: 3番手(タイム:1分50秒358)	決勝: 2位
ST1000	3	■作本輝介		予選: 7番手(タイム:1分51秒024)	決勝: DNF

清成龍一がレース1で2位フィニッシュ  
渡辺一馬もST1000初戦で2位表彰台

KEIHINブルーからAstemoレッドに変わり迎えた2021年シーズンが4月3日(土)・4日(日)に栃木県・ツインリンクもてぎで開催された。Astemo Honda Dream SI RacingからはJSB1000クラスに、今年も清成龍一がエントリー。渡辺一馬はST1000クラスにスイッチ。作本輝介との2台体制で臨む。

前週に行われた事前公開テストから、清成は様々なセッティングを要求。これにチームも全力で応え、足回り、クラッチ、電子制御など2年目を迎えるHonda CBR1000RR-Rのデータを徹底的に洗い出して行った。一方、ST1000にスイッチした渡辺は、事前テストで一度転倒はあったものの、乗り換えは順調で好タイムをマーク。レースアベレージをいかに上げるかを課題にマシンセットに勤んでいた。ST1000、2年目の作本もマイペースにセットを進めていく。

レースウィークは、雲が多かったものの、おだやかな天候が続いた。JSB1000クラスは、今年も、岡山ラウンド意外は、2レース制(第5戦鈴鹿は調整中)で行わ



れるため、予選のベストタイムはレース1、セカンドタイムでレース2のグリッドが決まる。清成はセッション終盤にアタックし、2周とも、ほぼ同タイムも1分48秒4をマーク。両レースとも予選2番手グリッドを獲得した。ST1000の渡辺は、一発タイムがなかなか出せない状況と言いながらも1分50秒358まで詰め、予選3番手に入りフロントロウスタート。作本は、1分51秒024で予選7番手につけた。

土曜日に行われたレース1。清成は好スタートを切るとレースをリード。序盤からヤマハファクトリーの中須賀選手と一騎打ちのトップ争いを繰り広げる。レース終盤に入っても清成はトップをキープしていたが、マシンに問題が出始めると、僅かなすきを突かれ、17周目に2番手にポジションを落としてしまう。その後は、後方から迫ってくる選手を抑え2位でゴール。2021年シーズン初戦を2位表彰台で飾った。



日曜日は、天気予報では下り坂。ちょうどレースのときに雨が降ってくる可能性が高かった。そしてST1000クラスのレースに向けたサイティングラップが始まろうというときに雨が降ってくる。ウェット宣言が出され、周回数も2周減算の12周で争われることになる。路面は所々は濡れ、雨も降り続いていたが、雨雲の動きを確認し、雨は止む方向のため、渡辺も作本もスリックタイヤをチョイスした。

好スタートを切った渡辺はホールショットを奪うものの、2コーナーでレインタイヤを履いているライダーにかわされる。序盤は、状況を見ながらマージンを取って走らなければならない、レインタイヤ勢にかわされオープニングラップは5番手で戻ってくる。作本は、渡辺の前に出て4番手だったが、チームメイト同士でポジションを入れかえながら周回を重ねて行く。





レースも折り返しとなるころには、雨も止み、路面も乾いて来ていた。これを確認した2人はペースアップするが、さらに速いペースで追い上げて来た高橋選手にかわされてしまう。それでも渡辺が2番手、作本が3番手を走っていた。残り2周となったところで作本が渡辺をかわし2番手に上がりファイナルラップに突入するが、ヘアピン進入で痛恨の転倒。再スタートはできず、そのままリタイアとなってしまふ。渡辺は、2位でゴールし表彰台に上がった。

JSB1000クラス、レース2でも清成は好スタートを切り、真っ先に1コーナーに入って行くが、続く3コーナーで渡辺選手と中須賀選手にかわされ3番手に降順。それでも前がペースを抑えて走っていたため、ついて行きレース終盤にチャンスがあればと思っていた。しかし、マシントラブルの症状がひどくなり、そのペースで走ることも難しくなってしまう。ここで清成は、これ以上走るとは危険と判断。ピットインしレースを終える決断をしたのだった。



清成 龍一

「事前テストから予選まで大きなことから、細かい作業まで本当に多くのことを試しました。大きく前進することはできなかったのですが、着実にマシンはよくなってきていました。ボクのがまを聞いてくれたチームに本当に感謝します。そこまでやったにも関わらずレース1、レース2共にトラブルが出てしまいました。レース1はチェッカーを受けることができましたが、レース2は、周りに迷惑をかけてしまう可能性もあったので自ら判断してピットに向かいました。開幕戦を終えて課題も明確になってきているので、次戦の鈴鹿は、皆様のご期待に応えられるよう全力を尽くします」



渡辺 一馬

「事前テストからあくまで決勝でのアベレージタイムを上げることを目的にセットアップを続けていて、順調に進んでいましたし、いいレースができる手応えは十分ありました。レース直前に雨が降ってきてしまいましたが、スリックタイヤで行くことは、チームの後押しもありましたし、迷いはありませんでした。トップが見える位置で状況を見ながらペースを上げていたのですが、高橋選手の走りを見るとマージンを取りすぎているのかと反省しています。チームは、いいマシンを用意してくれましたし、Astemoの皆さんを始め、多くの方が応援を駆けつけてくれたので、優勝する姿をお見せしたかったのですが…。次戦こそ、勝てるように頑張ります」



作本 輝介

「予選までの流れは、今ひとつでしたし、タイムアップできず3列目からのスタートになっていました。レースは雨がパラつく難しいコンディションでのスタートになりましたが、1コーナーでうまくイン側から立ち上がることができたのですが、そこからレインタイヤ勢に抜かれて行き我慢のレースになっていました。そこから路面が乾いていき、探り探りペースを上げて行っているときに高橋選手が後ろから来て、ついて行きたかったのですが、合わせきれませんでした。2位表彰台でゴールしたいと思っていたのですが、自分のミスで転倒してしまい応援してくださいました方、チームに申し訳ない気持ちでいっぱいです。気持ちを切り換えて次戦に臨みます」



チーム監督：伊藤 真一

「まずはコロナ禍の中、無事に開幕戦を迎えることができたことを関係各位に感謝いたします。事前テストから試行錯誤しながら努力してきましたが、JSB1000清成の方にはトラブルが続いてしまい、レース2はリタイアせざるを得ない状況を作ってしまったことは、チームの責任でもあるので、しっかり改善して行きたいです。ST1000クラスは、タイヤチョイスが明暗を分ける結果になりました。ウチは2人ともスリックで当たりでしたが、高橋選手が速すぎましたね。作本の転倒は残念でしたが、2人で切磋琢磨してレベルアップできるようにしていきたいですね。KEIHINからAstemoに変わって迎えた初戦ということで、多くの皆さんが応援に駆けつけてくださいました。本当にありがとうございます。次戦もチーム一丸となって挑みますので、引き続き応援よろしく願いたします」

次戦、第2戦鈴鹿2&4レース(JSB1000クラスのみ)は、4月24日(土)25日(日)に行われます。